

科目名	長期インターンシップ	英文表記	Long Term Internship	2017/3/10			
科目コード	6021						
教員名:【電子通信】兼城千波				作成			
技術職員名:							
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
全コース	専1・2	選	学修	4~12単位	実習	通年	
科目目標 【MCC目標】	<p>①長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる</p> <p>②高専で学んだことと働くことを関連付けて考え、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる</p> <p>③就業経験および共同研究・受託研究を通して、研究開発の意義を学び、遂行することができる</p> <p>【6-3-1 VII-A】企業等における将来にわたるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを考えることができる</p> <p>【6-3-1 VII-A】キャリアイメージを実現するために必要な自身の能力について考えることができ、それを高めようとする姿勢をとることができる。</p> <p>【6-3-1 VII-A】企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任を理解できる</p> <p>【6-3-3 VII-C】自らの主体性や意欲の向上から、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を持つことができる</p> <p>【6-3-3 VII-C】品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる</p> <p>【6-3-3 VII-C】チームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる</p>						
総合評価	<p>研修(日報による評価40%)および研修先の評価(40%)、およびインターンシップ報告書の内容(20%)で評価する。60%以上を合格とする。</p> <p>履修に必要な書類:受入許可書および日程表(この提出をもって履修許可とする)、日報、派遣先からの評価書、報告書(様式任意)、報告書(学校様式2)、発表会資料、履修願</p> <p>◎単位数 ・1カ月:4単位 ・2カ月:8単位 ・3カ月以上:12単位</p>						
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック			
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック
	40%	① 長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる。	研修(日報による評価40%)および研修先の評価(40%)、およびインターンシップ報告書の内容(20%)で評価する	実務経験を通し、その内容を理解し、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる	実務経験を通し、その内容を理解し、職業意識を向上させることができる	実務経験を通し、その内容を理解し、日報や報告書に記述することができる (指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)	
	30%	② 高専で学んだことと働くことを関連付けて考え、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる。	研修(日報による評価40%)および研修先の評価(40%)、およびインターンシップ報告書の内容(20%)で評価する	実務経験を通し、その内容を理解し、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる	実務経験を通し、その内容を理解し、高専で学んだことと働くことを関連付けて考えることができる	実務経験を通し、その内容を理解し、自らの役割(立場)について日報や報告書に記述することができる (指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)	
30%	③ 就業経験および共同研究・受託研究を通して、研究開発の意義を学び、遂行することができる	研修(日報による評価40%)および研修先の評価(40%)、およびインターンシップ報告書の内容(20%)で評価する	実務の内容と意義について理解し、自ら考え、関係者と相談しながら、実務を遂行することができる、	実務の内容と意義について理解し、関係者と相談しながら、実務を遂行することができる	実務の内容と意義について理解し、意義に基づいて実務経験をし、その内容を日報や報告書に記述することができる (指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)		

本科・専攻科 教育目標	1	2	3	4	◎(3) 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する ○(1) 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する		
	○		◎				
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成長物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		0	0	100	0	100	
基礎的理解	①②③			25		25	
応用力(実践・専門・融合)	①②③			25		25	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)	①②③			25		25	
主体的・継続的学修意欲	①②③			25		25	
授業概要、 方針、履修 上の注意	<p>【概要】 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会に必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。</p> <p>1. 履修を希望する学生は、各コース科目担当教員の指導を受け、授業計画に基づいて、インターンシップを実施する。 2. 実際の現場で長期にわたって業務を体験することで、実践的な技術を理解する。 3. 長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につける。 4. 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。 5. 習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会に必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。</p> <p><b>別紙、「長期インターンシップ実施要領」を必ず読み、行動すること。</b> <b>◎単位数 -1カ月:4単位 -2カ月:8単位 -3カ月以上:12単位</b></p>						
	教科書・ 教材	教員作成資料、企業作成資料					

授 業 計 画								
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック			
1	講義内容説明・ガイダンス	1	インターンシップの意義と講義の進め方についてガイダンス					
2	インターンシップ先企業研究	9	企業研究、大学受け入れ先検討	企業・大学の調査				
3	インターンシップ	160	約4週間の企業研修・大学での研究 ①企業における多様性を理解し、自らの進路としてキャリアデザインを構築することができる ②企業における社会的責任を理解できる ③企業活動が国内外の他社との関係性を理解できる 【6-3-1 VII-A】企業等における将来にわたるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを考えることができる 【6-3-1 VII-A】キャリアイメージを実現するために必要な自身の能力について考えることができ、それを高めようとする姿勢をとることができる。 【6-3-1 VII-A】企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任を理解できる 【6-3-3 VII-C】自らの主体性や意欲の向上から、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を持つことができる 【6-3-3 VII-C】品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる 【6-3-3 VII-C】チームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる	研修研究内容の自己研究				
4		～						
5		520						
6								
7		成果報告まとめ				10	インターンシップ報告書の作成・報告会資料作成・報告	資料作成・プレゼンテーション
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
期末	期末試験	[2]						
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23	後期中間試験(行事予定で週変更可)							
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
期末	期末試験	[2]						
学習時間合計		180～ 540	実時間	#VALUE!				
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)				
①	企業内研修・大学研究での課題レポート			各2時間×(5～				
②	課題発表(テーマに沿った課題について調べ、発表資料を作り、発表する。)			各2時間×(5～60)回				
③								
				計(20～240)時間				
(各科目個別記述)								
・ この科目の主たる関連科目は情報通信システム工学科科目関連図一覧表を参照のこと。								
(モデルコアカリキュラム)								
・ 対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。								
(航空技術者プログラム)								
・ 【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。								
(学位審査基準の要件による分類・適用)								
科目区分 関連科目 工学及び周辺技術等に関する科目								

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)